

# 決算審査特別委員会

## 経常収支費比率九十六・六%

### 赤字決算となった総額六十七億四千万円の十七年度決算

議員全員による決算審査特別委員会（田邊公教委員長）が九月十一日から十九日までの五日間、伯耆町になって初めての通年決算となった平成十七年度一般会計はじめ、特別会計の決算を審査しました。

委員会は、二日間全体会を行い、次の二日間では各常任委員会において、所轄課の審査を行いました。

委員会最終日には各常任委員会審査意見を調整し、町長に回答を求めました。回答について質疑を行い委員会では認定することに決しました。



見直される町内循環バス

#### 決算に見られる特徴

全体では赤字決算となっており、経常収支比率が九十六・六%となり財政が硬化化した非常に厳しい決算となっております。

歳入では三位一体の改革により補助金の削減、交付税の大幅な減額、税源移譲が思いのほか少なかったこと

とが、大きな要因です。特に特別交付税の前年度比六十七%の減額が大きく影響していました。不足額を財政調整基金から一億円を取り崩して対応してあります。

各会計のいわゆる滞納総額が、一億円の台に達してしまいました。町税などの自主財源は二十二億五百万円でした。

歳出では償還に備えて二億三千万円を減債基金に積み立ててあり、各特別会計への繰出金が年々増加しております。

人件費は十二億六千二百万円、十九・五%を占めており引き続き抑制が必要で、各科目の支出は、創意工夫しながら適正に執行されていきました。

#### 歳入歳出の主なもの

歳入		歳出	
地方交付税	二十九億九千万円	人件費	十二億六千二百万円
補助金交付金等	九億七百万円	物件費	十億四百万円
町民税等	十三億七千万円	扶助費	三億三千五百万円
		補助費等	八億六千二百万円
		普通建設事業費	五億九千二百万円
		公債費	十三億八千万円

決算委員会の意見として  
次の事項を指摘しました。  
これについて町長より回答がありました。

◎分庁舎の有効利用に努めること。

町長 当然のことと捉えていて、空スペースの有効活用を考えているところで、商工会センターの活用もその一環と思っている。その他の活用方法について議会からもご意見を頂きながら、有効活用を図っていききたい。

◎経常経費の改善を早急に図りたい。

町長 平成十八年度は五%削減を目標として取り組んでいる。経常経費の改善は当然のことであり、今後も内容をチェックし、無駄な執行のないように一層の見直しを図りたい。

◎溝口地区において、ごみステーションの建設を図り、合わせて廃棄物減

量等推進員も選出し収集業務等の簡素化を推進されたい。また、収集業務経費の見直し軽減を図ら

れたい。

町長 溝口地区では、地区の理解が進まない状況もあり啓発を積極的に取り組んでいきたい。

町民が自らの問題として、また地域の問題として捉えて頂き、行政と町民が一体となってステ

ーション化に取り組んでいきたい。

収集業務経費については、実態を調査し検討していききたい。

◎全職員で徴収チームを作るなど、具体的な滞納（町税・保険料・使用料・保育料・住宅新築貸付資金・家賃等）処理の方策



全町に早急なゴミステーションの設置が望まれる